

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	苫小牧市こども通園センター おおぞら園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月4日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	265人	(回答者数) 242人
○従業者評価実施期間	令和8年2月16日		令和8年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 15人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自治体の事業所として、各種研修や人材育成の機会が多く、職員が専門性を高めながら支援の質の向上に取り組む体制が整っている。	自治体主催の研修や外部研修へ積極的に参加し、職員の専門性向上に努めています。また、研修で得た知識や支援方法については職員間で共有し、日々の支援に活かすよう取り組んでいる。	外部研修の受講内容を職場内で情報共有し理解を深めることができるよう、内部研修の持ち方を工夫している。
2	各専門職が配置されていることにより、多職種連携を図りながら子どもを多角的にアセスメントし、専門性を活かした支援を提供できる体制が整っている。	各専門職が連携しながら定期的に情報共有やケース検討を行い、子ども一人ひとりの特性や発達状況を多角的に捉えるよう努めています。それぞれの専門性を活かしながら支援内容の検討を行い、より適切な支援につなげている。	各専門職が最新の知識や技術を学ぶことができるよう、有能な研修への参加計画を立てるとともに、道内で児童発達支援にあたる専門職との連携を図りながら研鑽に努めている。
3	感覚統合室や学習室、プレイルーム、多目的室などの設備環境が整備されており、支援の目的や子どもの特性に応じて活動場所を選択しながら支援を行うことができる。	多様な設備環境を活かし、活動の目的や子どもの特性に応じて活動場所を選択しながら支援を行っています。子どもが落ち着いて活動できる環境づくりにも配慮している。	通所児童各々の発達課題を整理し施設設備が発達段階に応じた有効な活用となっているか児童発達支援管理責任者を中心に検討を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	十分な通所回数の確保が難しい。	利用児童が多い。共働き世帯が増えていることから、利用希望が集中する曜日や時間帯においては、希望される通所回数の確保や振り替えの対応が難しい場合がある。	利用状況を把握しながら曜日や時間帯の調整を行うとともに、キャンセル時の振替案内などを工夫し、可能な限り希望に沿った利用ができるよう体制作りをすすめる。
2	事業所全体の取り組みや支援の意図について十分に発信できていない部分がある。	日々の支援を優先する中で、事業所としての取り組みや支援の意図について十分に情報発信する時間を確保することが難しい場合がある。	今後はおたよりや掲示物等を活用し、事業所での活動内容や支援の目的について、保護者により分かりやすく情報発信を行っていく。
3	保護者同士が交流できる機会については、十分に設けることができていない状況にある。	保護者の就労状況や生活スタイルも様々であることから、交流の場を設定することが難しい面がある。	今後は保護者のニーズを把握しながら、保護者同士が情報交換や交流を行える機会について検討し、可能な範囲で交流の場について取り組んでいきたいと考える。